

## 平井川流域連絡会（第6期）第2回全体会議事録

日時：平成23年6月9日（木） 午後7時～午後9時

場所：あきる野ルピア3階（産業情報研修室）

### 委員出席者

座長

副座長

公募委員 6名

行政委員 6名

### 次第

1. 開会

2. 議題

(1) 第6期（前期）の活動報告について

(2) 平成23年度河川維持工事について

(3) 平成22年度生物調査結果の報告について

(4) 平成23年度以降工事箇所の施工順序について

3. 閉会

### 配布資料

1. 次第

2. 平井川流域連絡会（第6期）座席表

3. 平井川流域連絡会（第6期）委員名簿

4. 平井川流域連絡会（第6期）第3回小委員会議事概要

5. 第6期前期 平井川流域連絡会の活動について

6. 平成23年度 平井川維持工事箇所図

7. 全域調査結果（鳥類）

資料－1

8. 事後調査結果（植物調査）

資料－2

9. 事後調査結果（魚類・底生動物調査）

資料－3

10. 事後調査結果（カヤネズミ調査）

資料－4

11. 事前調査結果及び保全対策（植物）

資料－5

12. 事前調査結果及び保全対策

（魚類・底生動物・小動物・陸上昆虫類）

資料－6

13. 事前調査結果及び保全対策（湧水等）

資料－7

14. 施工順序検討案

## 議事内容

### 1. 開会

- 事務局           これから開催したいと思います。(配布資料の確認を行う)  
                          2枚目、委員名簿についてですが、かなり交代がございます  
                          まず、上からですね、交代ではないのですが、秋川漁協の●●  
                          氏が体調不良ということで今日は、代理で二名の方が見えてお  
                          ります。●●さんと●●さんですね。  
                          よろしくをお願いします。
- 事務局           今後ですね、●●さん、これから出られる？
- 市民委員        本人はまもなく治るだろういっているのだけど、私達にして  
                          みると1ヶ月ぐらいで治る状況では無いです。二人で交替で来  
                          るようになると思います。名前は今の●●で結構ですから。
- 事務局           行政委員のあきる野市環境経済部環境課長が4月から変わった  
                          ということ、環境課長、自己紹介をお願いします。
- 行政委員        皆さん今晚は、あきる野市環境経済部環境課長でございます。  
                          よろしくお願いたします。
- 事務局           東京都の建設局河川部計画課中小河川計画担当課長がかわり  
                          ました。今日は代理で●●になります。
- 事務局           事務局の異動があります。河川設計係長の●●が、●●にか  
                          わります。
- 事務局           4月から配属になりました河川設計係長です。よろしくお願  
                          いいたします。
- 事務局           工事区係長からも挨拶をお願いします。
- 事務局           4月から西建のほうにまいりました工事区係長です。よろし  
                          くお願いたします。
- 事務局           4月から西建のほうにまいりました工事担当係長です。よろ  
                          しくお願いたします。
- 事務局           河川部の担当もかわりましたので、よろしくをお願いします。
- 事務局           4月から河川部計画課総合治水河川係になりました。よろし  
                          くお願いたします。

○事務局 同様に4月から配属になりました工事係です。よろしくお願いいたします。

○事務局 同様に設計係です。よろしくお願いいたします。

○事務局 それでは進行のほう、座長よろしくお願いいたします。

○座長 震災の影響で、約4ヶ月近く間があきました。震災では東京都の職員の直接の被害はありませんけども、親戚、親類で亡くなったり行方不明になったりした方もいらっしゃいます。亡くなられた方のご冥福をお祈りしたいと思います。

うちの事務所も、あの後、2名、岩手、宮城に行っております。事務所も通常体制でない状況の中で今仕事をしております。また、計画停電について、皆様のところもそうですが、停電もわからない事が多くて色々影響が出ております。今は落ちついていますが、また夏頃になるとわからないので、その対応と、バタバタしている中で仕事をしている状況です。そのなかで、平井川については、今のところ、予定通りの事業を進捗しろというところが、本庁からきております。今年度は、みなさんにお示ししている通り、代田橋上流の工事を着手する予定になっております。議題にもなっています、平井川に関しては、今のところ予定通りということをご報告いたします。

では、次第に基づきまして、進めてまいります。議題は4題あります。1. 第6期（前期）の活動報告、2. 平成23年度河川維持工事（メンテナンス）、3. 平成22年度生物調査結果の報告、4. 平成23年度以降工事箇所の施工順序を皆さんにご提案したいと思い、以上4題の議題を用意しております。では、第6期（前期）の活動報告について、事務局方からよろしくお願いいたします。

## 2. 議題

### (1) 第6期（前期）の活動報告について

配布資料 ●平井川流域連絡会（第6期）第3回小委員会議事概要  
●第6期前期 平井川流域連絡会の活動について

○事務局 平井川流域連絡会（第6期）第3回小委員会議事概要があります。これは後でゆっくり見ていただいて、内容がおかしいところがあれば、事務局のほうに言っていただければと思います。

次にA3判の「第6期前期 平井川流域連絡会の活動について」ですが、去年平成22年の6月21日に第1回の全体会を行ったこと、そこで今年平成23年度の工事内容等の説明をしまして、第1回目の勉強会というのを、現場を見て、それからその

後御堂会館で意見交換をするということを、第1回目の平成22年度の8月4日に開催しました。

第1回の小委員会を平成22年9月9日、ここでは、勉強会の報告とか平成23年度の工事内容について、いろいろ湧水の保全に対する提案をしました。また、第2回目の勉強会も同じ代田橋の現場を見て、御堂会館で専門家を交えて意見交換をしました。第2回の小委員会は平成22年11月16日、ここでは第2回目の勉強会の報告をいたしまして、引き続き平成23年度の工事内容についての専門家の意見を参考にした提案を作成していただきました。第3回の小委員会を平成23年1月18日に行いまして、この時は平成23年度の工事内容についてと、平成24年度の工事を2年前に提案することになっていたもので、平成24年度の内容についても説明をおこないました。第3回目の勉強会（平成23年2月21日）は、専門家を交えず現地を見て、樹木のマーキングとオオブタクサ生育地表土の焼き入れ処理、等検討したということです。

残念ながら、第2回の全体会は3月11日の震災で、延期することとなりました。活動報告については以上です。

○座長 何かご質問、意見等ありましたら、よろしくをお願いします。

★委員からの質問はなし。

○座長 また、後ででも結構ですので、何かあればお伺いします。では、「平成23年度河川維持工事について」、事務局をお願いします。

## (2) 平成23年度河川維持工事について

配布資料 ●平成23年度 平井川維持工事箇所図

○事務局 A4判のポンチ絵がついている「平井川維持工事箇所図」があります。委員のほうから維持工事についても、年度当初に示していただきたいという意見がございましたので、平成23年度工事の箇所図というものを作りました。場所は秋川街道の堀口橋の下流、去年もしゅんせつ工事をやった場所の続きなんですが、羽生橋と堀口橋の間、土砂がかなり溜まっているカーブの所で、しゅんせつ工事を行います。しゅんせつ量としては1400<sup>3</sup>m<sup>3</sup>、場所が日の出町大久野地内、取った土はUCRに運んで、処理するということでもあります。

今年の維持工事はこのひとつだけ、他は改修工事で代田橋のほうでやっていますが、後で提案させていただきます。維持工事は1件だけです。以上です。

○座長 これについて、何かご質問、意見等ありましたら、よろしく

お願いします。

★委員からの質問

○市民委員　　ここは伏水する場所ですか？確かあの辺は伏流があったと思うが？

○事務局　　伏水する場所は、そこより上流です。ここはカーブで土が堆積している所で、うちの水防倉庫の裏あたりです。

○市民委員　　時期は大体いつぐらいですか？

○事務局　　秋以降になると思います。

○座長　　よろしいでしょうか。また、何かあれば、後ででも結構ですので、お伺いします。では、昨年度の「生物調査結果の報告について」、事務局お願いします。

(3) 平成 22 年度生物調査結果の報告について

1) 全域調査結果及び事後調査結果について

配布資料	全域調査結果（鳥類）	資料－1
	事後調査結果（植物調査）	資料－2
	事後調査結果（魚類・底生動物調査）	資料－3
	事後調査結果（カヤネズミ調査）	資料－4

○事務局　　「平成 22 年度生物調査結果の報告について」ということで、資料が多く、「全域調査結果（鳥類）」、菅瀬橋下流の平成 19 年度工事に関する「事後調査結果」、平成 23 年度工事に関する「事前調査結果及び保全対策」と、3つの項目がございますので、前半の「全域調査結果（鳥類）」、菅瀬橋下流の平成 19 年度工事に関する「事後調査結果」については、調査会社のほうからご報告させていただきます。

①全域調査結果（鳥類）について

○事務局　　まず、全域調査結果（鳥類）についてですが、平成 18 年度と平成 22 年度に、いままで調査を行われております。平成 22 年度は 44 種確認されておりました、平成 18 年度、1 回前の調査では 39 種、5 種増えております。平成 18 年度と 22 年度を比較しますと、確認種の 77.5%（31 種）が同一種でありました。

各区分ごとに分けて確認していくと、下流区分 0 km 多摩川合流部から菅瀬橋下流 4.2 km 地点では、平成 18 年 34 種、平成 22 年度に 36 種を確認して、28 種（78%）が同じでした。

今回平成 22 年度の調査で確認できて、平成 18 年度に確認されていて、平成 22 年度に確認されていないのは、おもに渡り鳥

で、年による渡来数の変動が大きいと、確認されなかった可能性が高いと思われます。以外の留鳥についてはほとんど変化していない為、下流区間における鳥類の生息環境については大きな変化は無かったと考えられます。

中流区間 4.2 kmから 7.8 km区間は平成 18 年度の 29 種、平成 22 年度 25 種を確認しております。18 種 (72%) が同一種でした。今回平成 22 年度の調査で確認できなかった種はトビのように広い範囲を利用している種ですとか、あるいはアオジなどのように草地を主に利用する種でした。今年度は、カモ類が増加し、アオジ等の草地を主に利用する種が減少していました。これについては、湛水域の増加と草刈等による草地の減少によりアオジ等の草地を利用する種が減ったと考えられました。

中流区間は下流区間同様に留鳥についてはほとんど変化していない為、中流区間においても生息環境については大きな変化は無かったと考えられます。

上流区間ですが、平成 18 年度に 25 種、平成 22 年度に 24 種を確認しております、そのうち 15 種 (63%) が同一種でありました。平成 22 年度の調査で確認できなかった種はカワウ、マガモ、カルガモ等の水鳥でした。それから、新たに確認された種は、樹林地や耕作地を利用する陸鳥というのが増えていたことが確認されました。水鳥が減少して、陸鳥が増えたのは、平成 18 年度に比べて上流部の水量が少なく水鳥が休息できる場所が少なく、その変わり陸鳥が利用できる場所が増えたためと考えられました。

とりあえず、前期調査結果ということで説明いたしました。

## ②事後調査結果 (植物調査) について

○事務局 次に、事後調査結果ということで、菅瀬橋下流左岸側の工事を行った区間の事後調査の結果についての説明をさせていただきます。植物種につきましては、事前調査の平成 19 年度の 142 種を確認しておりましたが、事後調査、昨年度の平成 22 年度では、238 種と大幅に種数が増えています。

その下の植生図を見ていただきます。事前調査ですが、オギ・ツルヨシ群落とそれ以外の樹木が多少、はえてるような環境でした。

工事直後の平成 20 年度をみますとメヒシバーエノコログサなど一年生の攪乱された所に主に生えるような種が非常に増えていて、それがその次の年の工事一年後になりますと、ツルヨシ・オギ群落に変化しています。

平成 22 年度につきましても、そのままツルヨシ・オギ群落のまま推移しているというのがわかるかと思えます。その次のページに植物の「断面模式図」がのせてありますが、主に C と D の所につきまして、ここで根茎を含んだ表土埋め戻しをおこな

っております。それが、左岸側のところです。平成 19 年度に調査を行ってないので、19 年の時の結果はわからないのですが、平成 20 年度は先程の植生図と同様にメヒシバ等が多いのがわかるかと思えます。

その後、21 年、22 年になるにつれてオギ・ツルヨシが増えて特に平成 22 年度になるとほぼ草丈が 2m ぐらいまで回復し、密生し、非常に良い状態に戻ってきていると考えられます。それについて評価を行いました。植生につきましては工事前の状況にほぼ回復したと考えられます。オギ・ツルヨシの生育状況についてもほぼ工事前の状況に回復していると思います。今回、早期緑化を行った根茎を含む表土の埋め戻しによる保全工法は有効であったと評価をいたしております。

### ③事後調査結果（魚類・底生動物調査）について

#### ○事務局

魚類・底生動物調査の結果について、平成 19 年度はウキゴリ属の一種、アブラハヤ、カワムツなど魚類が多く確認されております。トンボ目の方では 5 科 7 種確認されておまして、特にコオニヤンマが多く、それ以外にハグロトンボ、カワトンボといった種が多く確認されました。

平成 20 年度、平成 21 年度、平成 22 年度とみていきますと、平成 20 年度にカワムツが非常に多くなってそれ以外の種が少なくなっていることがわかります。底生動物の方ではハグロトンボ、コオニヤンマ、コシボソヤンマ、この 3 種が多くなっております。平成 21 年度になりますと、カワムツが多く、それ以外アブラハヤそれからウキゴリ属の一種が増えてきております。トンボについてはコオニヤンマが多くて、それ以外にアオモンイトトンボ属の一種が非常に多くなってきているということです。平成 22 年度になりますと、カワムツが多いのは変わらず、それ以外にアブラハヤ、ウキゴリ属の一種、シマドジョウといった種が増えてきて、だいぶ事前の状況に戻ってきていると思われれます。

トンボ目につきましても昨年度と変わらずコオニヤンマが非常に多く、他ダビドサナエ属、オナガサナエ、ハグロトンボといった種がほぼ同じ個体数が捕獲されているということです。これについて評価いたしますと、魚類・底生動物の生息環境というのは工事前の状況にほぼ回復していると考えられました。去年の工事前と工事後の生息数はほぼ同じです。

河床の改変は行ってないので、工事が魚類・底生動物の生息環境に与えた影響は軽微だったと評価できるかと思えます。工事前、工事後ともに主な生息種であるカワムツ、アブラハヤ、ウキゴリ属の一種は、年により、個体数、種比率は変動しているものの、この 3 種が主に上位を占めているのは変わりなかったです。工事前は、アブラハヤが多かったが、工事後は、カ

ワムツが多くなっていました。これについては、自然の変化によるものと考えられます。

底生動物については、ハグロトンボ、コオニヤンマが多い傾向は工事前工事後とも変わらないため、工事の影響は軽微であったと評価できるかと思えます。類似した生息環境に生息種についてみますと、工事前に確認されましたギバチですが、生息環境がよく似ているオナガサナエが非常に増えていることから、ギバチの生息環境も回復しているものと評価できるものと思っております。以上です。

#### ④事後調査結果カヤネズミの調査について

○事務局 カヤネズミの結果について説明させていただきます。平成 19 年度、工事前ですが、工事範囲内で 2 巣が確認されておりまして、それ以外は、菅瀬橋上流の草地で 4 巣が確認されました。工事後直後の平成 20 年度には、河川内では確認されず、右岸側の中耕地で、5 箇所が確認されました。事後調査工事 1 年後になりますと、上流では非常に多く確認されていますが、工事がおこなわれた部分では確認されずに、中耕地と右岸側の工事が行われていない場所で、1 巣ずつ確認されています。平成 22 年度になりますと、上流域で 9 巣、下流域の工事範囲内で 6 巣、確認したのでカヤネズミについても戻ってきはじめているのがわかるかと思われまます。

これについて評価をしますと、カヤネズミの生息環境が工事前の状況に回復していると考えられます。これについては、早期緑化を行ったことによって、カヤネズミの生息環境が速やかに回復したと評価できると思われまます。工事前に上流への追い込みを行いました。平成 20 年度に逃避すると考えられた菅瀬橋上流の草地との生息が確認できなかったため、追い込みの効果については確認できませんでした。

最後に両生類の調査についてですが、事前調査時には両生類は確認されませんでした。事後調査の平成 20 年度にも確認されず、平成 21 年度にカジカガエルとツチガエル、両生類ではありませんが爬虫類のカナヘビ、アオダイショウを確認しました。平成 22 年度にはまた両生類は確認できず、カナヘビのみを確認しています。これについての評価は、両生類、爬虫類の確認個体数が少なかったことから、工事の影響の評価はできないと考えられたので、行っていません。以上です。

○座長 ありがとうございます。繰り返しますが、一番最初の現地調査結果というのはですね、ずっと前から毎年やっております平井川全域における調査で、去年は鳥類の年だったものですから、それを含め 5 年前の 18 年度と比較したものが、一番最初のペーパーです。それから事後調査と書いてあるものが、菅瀬橋



やった後に、その影響を見ようということで、平成19年から毎年やっております調査、菅瀬橋の工事をやった後に回復してくるとか、工事の影響はどうかといったところを見るため調査で、菅瀬橋の下流にスポットを当てた調査、植物、魚類・底生動物、カヤネズミ、両生類、というのが、今説明いただいた資料であります。

これについて、何かご質問等あれば、お願いします。

★委員からの質問

○市民委員 鳥類について、留鳥の種類や数にあまり変化がみられないので、環境の変化はあまりなかったとの説明でしたが、留鳥だけで判断するのはちょっとどうかと思いますけど。渡り鳥にしても、渡ってくるその場所の環境がどうなっているかによって、変化があると思います。具体的には18年度に確認されているオオヨシキリですが、これの確認場所とみられなくなった原因はどう評価されているのか？

○事務局 そこまできちんと見ておりませんでした。

○座長 オオヨシキリというのは、特別な環境をあらわしているそういう鳥なのですか？

○市民委員 そう思いますけど。結構広いヨシ原、アシ原というか、そういうものが必要なのかなと。そういう感じですね。

○事務局 平成18年度に下流域で確認されたのはわかっているのですが、実際下流域のどこで確認されたかはきちんと把握できておりません。おそらく、確認したのは多摩川合流部付近とか、比較的下流の広いヨシ原で確認されたと考えております。そこで今回確認されなかった理由ははっきりとわかりません。

○市民委員 我々は、ちょうどこの18年度ぐらいから、瀬戸岡御堂橋の上流右岸のオギ原で、オオヨシキリがしきりに鳴いているのを確認しています。その後、残念なことに聴かなくなっちゃったものだから、気にかけていたことところなんです。

○事務局 オオヨシキリは比較的広いヨシ原でないと繁殖できません。テリトリーを作る時に、何羽か集まってではないと、繁殖しないというか。瀬戸岡御堂橋上流くらいの広さのヨシ原だと、一つがいか二つがいくらか住めない、ということと、オオヨシキリ自体が外にエサをとりに行く種ですので、例えば周辺に畑とか広い場所があつて、そういうところで虫を採ったりして、また元に戻ってきて子育てをするというような種ですので、そ

このヨシ原自体が狭くて、1回だけやってきたけど、結局つがいができなくて、次の年から来なくなったというような可能性が高いかなと思います。

○市民委員      どうもありがとうございます。

○市民委員      鳥類の調査というのは、のべ何日くらい、どの時季にやっていたのですか？

○事務局          スポットセンサス調査で、1 kmピッチに地点を設定いたしまして、その地点で、10 分間の調査を行っています。今回の場合は0から11 kmまで、12 地点のスポットセンサス調査を行っています。調査時季は夏、秋、冬の三季で、それぞれ1日です。天候は晴れを選んでやっています。

○市民委員      渡りの鳥が減っている理由はわかりますか？

○事務局          渡りの夏鳥については全国的に減っているといわれています。冬鳥については、カモなどですが環境省で毎年、ガンカモ一斉調査をやっていますので、それをみると、年によってかなり変動が大きいので、今年は少ない年にあたったという可能性もあるかもしれません。多少、その辺は広域の情報を見ないとなんともいえませんが。

○市民委員      全国調査、鳥類なんかは広いので、全国調査と比較して、平井川がどうなのかも考えなければいけませんね。

○事務局          もしくは東京都内など、その辺までみたほうがよいかと思えます。

○市民委員      カヤネズミは川の外、住居に移動しないのか？

○市民委員      カヤネズミは家には住まないもので、住居の中に住むことは聞いたことがありません。基本的にカヤで巣を作って、その中で子育てする、そういう環境がないと増えない種なので、他の種類だと思いますよ。

○市民委員      川にはカヤとかアシがなければダメなのかね？ 平井川は、昔は草がなく、石がごろごろしていた。大水が出ると石がごろごろして、草をながして、きれいな川だった。川らしい川がいい。なかなか難しいだろうけど。

○座長              それは前の議論にもなったのですが、どの時点まで戻すかと

いうことはいろいろな時代の人もいて難しいことです。カヤネズミは貴重種ですし、川遊びができるところ、魚に配慮したところもあっていいだろうと。今のところは、その場所場所において、いろいろな川を考えています。治水を中心に流域全体と予算を考えて行っています。

○市民委員 魚類の平成 22 年度の事後調査では、種の比率は良いが、個体数がかなり減っている。やけに少なく感じるが、どう考えるのか？

○事務局 これが、こちらでもわからないところがあるのですけれど、調査方法、時間は同じなのですが、実際やってみると、少なくなっている。そのかわり、昨年度よりトンボ目の底生動物が倍くらいに増えており、魚がいないから底生動物が増えているのか、そういった因果関係もあるのか詳細は不明です。

○行政委員 カワウがだいぶ増えてますよね。カワウが影響しているのでは？秋川から平井川までかなり移動しているように思える。

○市民委員 種数も減ってますよね。22 年にいなくなったのはウグイとかオイカワ、タモロコ。数に関してはカワムツ、アブラハヤが少なくなっている。「河原と遊ぼう会」でやっているガサガサでもオイカワとウグイが入らない。似た傾向がある。数も年々減っている。21 年がすごく多いのかもしれませんが。

○座長 我々も個体数は気になっていました。全域でもやっている魚類があるので、全体的に見ていかないと、この場ではちょっと難しいかなと。工事後は順調に増えていたので、これももう少し全域的に見ていきたいと思います。

○市民委員 カワウはギバチとか底生魚も食べますか？

○市民委員 何でも食べる。

○市民委員 カワウはどのくらい来てます？

○行政委員 秋川では、大体朝、40 から 30 羽くらい、

○市民委員 平井では、朝 5 時から花火で追い払いやっていた、3 月かな。最近は少なくなってきた。最近はアユ解禁で人が多くなってきたから。

○行政委員 今はカワウの産卵期だから、東京湾あたりに行っている。

- 市民委員 前から疑問に思っていることですが、コイが増えている。コイの影響は心配することはないのですか？
- 市民委員 コイは何でも食べる。コイがいると、川は一度は綺麗に見えますが、生物知っている人は感心しない。
- 行政委員 外来種が入ってきているので小魚を食べている可能性がある。
- 市民委員 外来種って、平井川にブラックバスは入っていないですよ。ほとんどいないですよ。オヤニラミではないですか？
- 行政委員 秋川にいるんですかブラックバス？
- 行政委員 オヤニラミは結構多いですね。
- 市民委員 ギルドの考え方で、ギバチの住むような環境が、ギバチ自体はいなかったがオナガサナエがいたので、そういった環境が戻ってきているということですが、早瀬とかいうことですよ。ただ、ギバチの場合は浮石が少なくなっているの、住みにくくなっているのかなという印象がある。それはどうですか？
- 市民委員 ギバチはかなり増えてますよ。ウチの前はかなりいるよ。
- 座長 これは狭い範囲でやっているの、広い、5年オーダーになっちゃいますが、定点ポイントを設けて、追っかけてみようと思っています。
- 市民委員 オギの移植が比較的上手くいって、群落がもどってきているのは、何箇所か排水口があって、栄養価が高い水が流れ込んでいるからなのでは？ あと、上の歩道のところが土になっていますよね。そこの土のところに生える野草を、地元の方が抜いて、それを川のほうに棄ててらっしゃっているの、そこからいろんなものが入り込んでいて、今年あたりはクズとかヤブガラシとか上に生えていたものが落ちて、生えてきちゃっているのかな。栄養価が高いところで繁茂しているのかな。ちょっと気になる。上の土の部分の草刈、西建さんの方には、地元の方が草ボウボウになると聞いていませんか？ 道路と護岸の間の遊歩道の一部が土になっていて、そこにいろいろ野草が生える。結構背が高くなって、それを抜いて下の河原に投げる。下流の左岸のところ。地域の人からすると、「何で土にしているのか疑問。草が生えて歩きづらい」と、言っていました。確かに何かしないと、結構、伸びているので。

○座長 確認しておきます。

○座長 時間の配分もありますので、先に進めさせていただいて、よろしいでしょうか。それではページ数ふってはいないのですが、「事前調査結果及び保全対策」ということで、今年度やるところの保全対策の説明について、事務局のほうから、よろしくお願ひします。

## 2) 保全対策についての提案

配布資料	事前調査結果及び保全対策（植物）	資料－5
	事前調査結果及び保全対策 （魚類・底生動物・小動物・陸上昆虫類）	資料－6
	事前調査結果及び保全対策（湧水等）	資料－7

### ①事前調査結果及び保全対策（植物）

○事務局 これからということにつきまして、事務局のほうから報告させていただきます。資料は、6枚目になります。資料の上に「事前調査結果及び保全対策（植物）」とあります。これから平成23年度の工事区間、そこについて工事しますのでそこにおける事前調査、それと、それをもとに今年は何を保全して、それをどのように保全していくのかということをお示ししたものです。まずは、植物について何ですけれども、植物の事前調査につきましては、この表は一番左側の列は、「平井川の川作り」で選定された主要種・要注意種なんですけど、これはもともと過去に作られた「平井川の川作り」でリストアップされた種類です。それを意識しながら、今度は真中の列ですね、「事前調査範囲（代田橋～瀬戸岡用水堰）で確認された種」というのがあるんですけど、これが平成22年度の事前調査区間、事前調査区間そのものはひろいんですね。代田橋から菅瀬橋の上流、約1キロくらいまで調査を行っております。その中でもさらに今年、23年度の工事をやる区間で確認されたというものを右の列で絞っております。それがどういうものが見つかったかということ、絶滅危惧種は特になかったのですが、植物に関しては、「平井川の川作り」で特徴づける種としてあげられるものは、ツルヨシやオギ、外来種としては、アレチウリ、オオカワヂシャ、オオキンケイギク、要注意種としては、オオブタクサ、オランダガラシなどがありますけど、メインとしてはオオブタクサなどが確認されております。そういった事前調査結果を基に、今後どのように、保全するものは保全を図っていくかを下の保全対策にまとめております。

保全対象そのものは、特徴づける種として確認されている、ツルヨシ・オギを保全していこうと考えております。保全対策1番、「ツルヨシ・オギ群落の保全」とありますけれど、この区

間、今年は代田橋の上流右岸、代田橋上流から瀬戸岡御堂橋の間の右岸側の工事に取り掛かりたいと考えておりますけれど、その区間において、「ツルヨシ群落、オギ群落を復元する」と書いてありますけれど、その後マルポチの後を読ませていただきます。「ツルヨシ・オギ群落の復元は、オオブタクサ群落を除去する右岸側の約 1,680 m<sup>2</sup>（オレンジ色の部分（1））で行う。」とありますが、図のように、今の現状としましてはほとんどオオブタクサが覆っているという状況であります。その中で保全種としましては、少ないのですが、ツルヨシやオギがありますので、「平井川の川作り」でも特徴づける種としてあげられているので、全面的にこのツルヨシ、オギをここで復元していきたいと考えております。

それをどのようにしていくかという、マルポチ2番ですね、その 1,680 m<sup>2</sup>のうち、ツルヨシ・オギ群落の復元につきましては、その両方の種ですね、種子の吹きつけ、吹きつけというより種を撒く、それを 1,480 m<sup>2</sup>の範囲で行いまして、残りの 200 m<sup>2</sup>につきましては、19 年度工事でもうまくいったと評価されている表土の移植を、200 m<sup>2</sup>でまかなっていきたいと思っています。そして、右岸側にある図面の緑色の3番とある、改変区域に生息しているオギ・ツルヨシといったものは、根茎を含む表土を1回採集・保管して、工事終了後に改変区域に埋め戻して、早期復元の助けしてもらおう、利用していこうと考えています。そして資料の下のほうにいきますけど、種の播種、吹き付けでまかなうということですが、それをどこからどのくらい持ってくるか、ということを下の【種子採集について】に書いてあります。

採集場所なんですが、代田橋上流から圏央道までの区間にツルヨシ・オギがかなりありまして、大体 5,500 m<sup>2</sup>分くらいツルヨシがあると考えております。大体、ツルヨシ・オギは 1 m<sup>2</sup>当たり 10 穂くらいあると考えられておりまして、5,500 m<sup>2</sup>だと 5,5000 穂があるだろうと。その中で 1,480 m<sup>2</sup>分の播種を考えているのですが、播種にあたっては 1 m<sup>2</sup>当たり 20 g くらい、これは調査会社から助言をいただいているのですが、それくらい蒔けばできるのではないかとということなので、1 m<sup>2</sup>当たり 20 g 蒔くとすると、1,480 m<sup>2</sup>蒔くについては、必要量としましては種子を 30 kg 採らないといけない、30 kg というのはどのくらいの量かという、ツルヨシ、オギのひとつの穂から平均 2g とれると、そうすると 30 kg 採るためには、約 15,000 穂が必要だと、そうすると上のほうからみると約 5,5000 穂あるので、そこから充分採集できるのではないかと、そこから約 15,000 穂、約 30 kg をとって、1,480 m<sup>2</sup>のところ蒔いて復元を図ろうかと考えております。採る時季としましては、種子が熟す 10 月～11 月頃に種子を採集しようと考えております。

それから、残り 200 m<sup>2</sup>につきましては、表土の移植を行うということなのですが、その方法としましては、1 m<sup>2</sup>あたり 1 株、計 200 本持ってくれば良いかなと。持ってくる 200 本ですが、基本的には、左岸側の今後護岸とか作る際に、改変するであろう場所、具体的にいいますと、図面にあります左岸側の茶色の 2 番のところでハッチのかかっている部分が、やがて護岸を造る時に掘削をしますので、ここから 200 本分持ってきて、これを移植しようと考えています。

それと同時に 23 年度工事区間に生育しているオギ、ヨシについても、使えるものについてはとって、工事の際にまた戻そうと考えております。その際も、ツルヨシ・オギにつきましては、ヨシについては水がなるべく浸かるところ、オギについてはなるべく陸地のところ、と場所を選びながら戻そうと考えております。そのような形で、復元を図っていきたいと思っております。

2 番にありますオオブタクサ群落のオレンジ色部分の除去についてですが、オオブタクサ群落を前提として除去しなくてはいけないと、これにつきましては表土ごと、種ごと採ろうということで 40 cm くらいの厚さでとれば、完全に駆逐できるのではないかとということで、掘り取ります。以前ですね、これについては、種ごと焼却処分を図ろうという意見がありましたが、その後調べたところ、通常処分だと 2000 円/m<sup>3</sup>のところ、セメント工場で処分すると 30000 円/m<sup>3</sup>と 15 倍で、量としては 670 m<sup>3</sup> あるんですけど、これをまともにセメント工場で処分すると何千万という金額になってしまいます。他に何社かあたってみたのですが、どこも同じ様な回答でした。そこで、申し訳ないですが、今回でてきた表土、オオブタクサ群落の表土の処分は、UCR 地、具体的には日の出にある太平洋セメントの採石場跡地に採石場復旧地の再生利用するということにしたいと思っております。あと、前提に、なるべくオオブタクサそのものは刈れるものは刈っておきたいなと思っておりますので、除去そのものはオオブタクサの花の咲く前の 8 月頃に 1 回、いっせいに草刈を行いたいなと考えております。以上が植物に関する「事前調査結果及び保全対策」になります。

## ②事前調査結果及び保全対策（魚類・底生動物・小動物・陸上昆虫類）

○事務局 続きまして、「魚類・底生動物・小動物・陸上昆虫類」についての「事前調査結果及び保全対策」になります。これも資料は同様に、一番左側の列に、「平井川の川作り」で選定されている種がありまして、右側の列には「平成 23 年度工事予定区間で確認された種等」というものを掲載してあります。具体的にいうと、魚類につきましては、絶滅危惧種としましては、ウキゴリ属の一種（専門家からいうとずばりはいえないということですが

が、ジュズカケハゼです)、シマドジョウ、アブラハヤ、カマツカなどが確認されております。それからオイカワ、要注意種としてコイなどがあります。底生動物では、オジロサナエ、ヒメサナエ、コオニヤンマ、オナガサナエなどが確認されています。これらが全体像として考えているのですが、これをどうやって保全していこうかということなんですけど、工事において何をやるということですが、保全対策の1番にあるとおり、基本的には工事の際、瀬替えとかやるとその際に生き物にかなりダメージを与えてしまうということで、瀬替え時に、河道に残った水溜りとかに取り残された種の採集と、上下流への放流をやっていこうかなと思います。その際は、採った種を適当に蒔くのではなくて、瀬に住むような種は瀬の環境に、淵に住むような種は淵の環境に放してあげるというように、なるべくケアしてあげたいと思っています。そのような形で、魚類・底生動物の保全対策をとっていきたいと思っています。

○事務局      それから、「小動物」なんですけど、両生類としてトウキョウダルマガエルが右岸側の湧水箇所を確認されております。哺乳類については、カヤネズミが、今回、全体的にはオオブタクサになってしまっているのですが、平成21年度の時に営巣している跡があったと確認されております。そういったものに対して、どういう保全対策をとっていかかということ、トウキョウダルマガエルについては、湧水環境があれば生きていけるということなので、確認された湧水環境の保全を図っていきたいと思います。カヤネズミについては、一時的に生息していたものと考えられましたが、今後、カヤネズミが生息できるような環境にということで、基本的に、ツルヨシ・オギ群落を復元していきたいと考えております。ニホンイタチについては、足跡だけが確認され、平井川を利用していると確認されています。それにつきましては、平成23年度区間につきましては、ニホンイタチが川に近づけられるように緩傾斜護岸とし、堤内地と堤外地が行ききできる構造にしたいと考えております。

○事務局      最後に、「昆虫類」なんですけど、昆虫類につきましては、基本的にヤナギ、タチヤナギをかなり利用しているのではないかと調査をかけたのですが、確かにヤナギに頼って生きている昆虫類がかなり確認されたので、23年度区間にあるタチヤナギにつきましては、掘削に支障のない範囲で残していきたいと考えております。

以上が、「魚類・底生動物・小動物・陸上昆虫類」に関する事前調査結果及び保全対策でございます。

③湧水について



○事務局 続きまして、湧水に関する事前調査結果及び保全対策になります。湧水につきましては平成 21 年度、22 年度を通じまして、調査をしました。調査箇所 St. 1 は代田橋上流の牛舎の前にある湧水の箇所、St. 2 は瀬戸岡御堂橋の排水溝から流れている箇所、St. 3 は左岸側にある池、St. 4 は本川の、4 箇所の水質調査結果を通じて、それぞれが湧水であるかどうかを確認してきました。

その結果、St. 1 は水温とかいろんなものから湧水であろうと、St. 2（瀬戸岡御堂の下流に流れている）は基本的に道路排水であろうと、St. 3 の池につきましては基本的には本川からの伏流水であろうと、St. 4 は本川であると水質調査を通じて把握することができました。

そして、湧水の保全対策としましては、下半分に示したように、前々回にも提出しているもので、細かいことは割愛させていただきますが、基本的に台地のほうから流れ出てくる水をそのまま表に出させてあげようと、そういったものを細工するように考えています。そういった湧水が出来るような護岸を考えています。以上が平成 22 年度の「事前調査結果及び保全対策」になります。

★座長より補足説明

○座長 ありがとうございます。今回はじめての人もいるので、今年度は、代田橋から瀬戸岡御堂橋の右岸側について、先ほど湧水のところでも説明がありました、隠し護岸、護岸を埋め込むといった整備を今年度予定しています。この箇所について、環境の保全をどうやっていくかといった説明です。これについて、何かご質問は？

★委員等からの意見・質問

○市民委員 オオブタクサの土のことが気になるのですが、ひとつは、平井川の工事で発生した土を基本的に戻すということはできないのか？これからのことも含めてなんですけど。聞いたところによると発生土のほうが必要より供給が上回って、持って行き場がない。溜まる一方だと。できれば、自分のところから出たものは自分のところに戻す、というのができないのかな、というのがひとつ。

もうひとつは焼却処分が難しいと言うことで、UCR のほうで受け入れてもらうということですが、UCR の受入れ地というのは、去年の資料でみると、たとえば荒川の土手とかそういったところにも使われる可能性があるかと考えていたので、平井川のオオブタクサが荒川に広まったら大変だなと思って。ここで、採石場復旧地と書いてあるが、平井川の発生土の受入れ地を指定できるのか？

- 事務局      まず、埋め戻しについては、掘削したものは埋め戻すところもあるので、できるものについてはなるべく行っている。それでもでてしまうものは外部に持っていきます。
- 2つめの UCR 地については、関東全域にあります。その中の一角に青梅地区がありますので、近いところで受け入れてもらいます。このあたりは採石場も多いのでその後の復旧地となります。
- 事務局      経済的にも一番安価なところで、検討します。
- 市民委員    今回の場合は近場の採石場ということで良いのですね。
- 事務局      そうです
- 市民委員    その太平洋セメントの現地には見に行けるのですか？
- 事務局      現地には関係者でないと行けないですね。
- 市民委員    深い穴があいているとか？
- 事務局      私も2年位前ですが、見に行きましたけど、だいぶ深いですね。掘り込みの状況になっています。
- 市民委員    平井川の河原の木は切れないのか？ 15～20年に1度大洪水があり、橋桁まで、水が来てゴミがひっかかる。堤防みたいになっちゃう。
- 事務局      今回も掘削地は一部伐採します。ハリエンジュは外来種で繁殖するので伐採します。環境の面もあり、全域はしません。
- 市民委員    ハリエンジュは表土40cmくらい掘るという話があったが。抜くだけ？
- 事務局      ハリエンジュは伐採、抜根します。
- 市民委員    抜根というと深さにすれば、30cm、表土30cmくらい掘るけど、土も多いよね？
- 事務局      表土は現地で落とします。
- 市民委員    オギとツルヨシの種をまいた事例はあるのか？多分はじめてだと思うけど？

- 事務局 オギとツルヨシについては、はじめてだと思いますが、同じような種を持つススキでは結構行われていますので、それと一緒にかなと考えています。
- 市民委員 河川ですか？
- 事務局 河川ではなく、普通の山の法面等で、ススキによる早期緑化などが行われています。
- 市民委員 1年草に負けませんか？
- 事務局 大丈夫だと思います。1回、1年草がバツと生えたとしても、次の年にオギなどがどんどん生え、背が高くなれば、菅瀬橋下流のような感じで、1年草に勝っていくと考えています。最初の年に、オギ以外の植物が生えてきたら、抜いておいたほうが良いと思います。
- 市民委員 穂をとるといって、代田橋から圏央道までの間で、10月～11月に穂狩りをするということですが、近くなったらどこの場所ですらいつぐらいかに行うか教えてもらえるか？
- 事務局 はい、情報は報告します。
- 市民委員 トンボの項ですが、東京都レッドデータがかわったので、コオニヤンマとかオナガサナエとか貴重種から外れますよね。
- 事務局 これは「平井川の川作り」で選定された主要種が入っていたので、それをそのままこちらのほうへ持ってきました。
- 市民委員 それは「特徴付ける種」のところですよ。
- 事務局 貴重種の修正の件、わかりました。
- 市民委員 カヤネズミの巣が春に右岸側で作りかけが見つけられたとのことですが、どこで見つかりましたか？
- 事務局 図上の小さい、上流側③の地点で、平成21年度に確認しました。
- 市民委員 ヤナギに依存する昆虫ですが確認種類が160種ですか？カブトムシやクワガタなど樹液にくるけど、抜けているのかな？
- 事務局 ヤナギに特化してくる種を表に載せているので。今回の資料

には記載していませんが他の種もでています。リスト自体はありますが、ヤナギに特化して依存している種をピックアップして、記載しました。

○座長 他に何かございますか？それでは最後になりますが、「平成 23 年度以降工事箇所<sup>①</sup>の施工順序について」、事務局のほうより、お願いします。

(4) 平成 23 年度以降工事箇所<sup>①</sup>の施工順序について  
配布資料 ●施工順序検討案 資料－ 8

○事務局 代田橋から菅瀬橋上流まで、我々西建としての施工順序検討案というものをお示ししています。まずは、今年度施工する箇所でございますが、下流の代田橋上流から瀬戸岡御堂橋の右岸側、表記で下のほうの①番、延長は 208m ほど、右岸側のみの護岸の構築と、管理用通路の整備を実施する予定であります。それから、翌年度の 24 年度につきましては、代田橋の下流に落差工があります。これを撤去しまして、自然河床に戻すというものを 24 年度に実施します。全長は約 40m です。25 年度におきましては瀬戸岡御堂橋の上流から、用水堰のところまでの右岸側につきまして、約 60m 片岸を実施いたします。そのあと、下流の瀬戸岡御堂橋の下流から代田橋までの左岸を実施いたします。次がちょっと飛んで、用水堰を含めた改築を 27 年度に行います。これにつきましては菅瀬橋下流の右岸から用水堰のところまでの右岸側と、用水堰から支川の鯉川の合流点のところまで左岸側、ここの年度だけ施工区間広いですけど、そこを実施いたします。そのあとに下流側の左岸、瀬戸岡御堂橋のところまで 28 年に行います。ここが終わった後、菅瀬橋の上流を 29 年度に実施していきたいと思っております。このような組み合わせで、実施していきたいと考えております。基本的に片岸施工で実施する、それから、施工にあたっては 2 年から 3 年を間を置いて片岸を実施するという考え方でやっております。一部、どうしてもできないところがあるところは両岸実施させていただきますが、基本的には片岸の植生といいますか、環境復元を待ってから、もう片方をやるという形で考えております。このような形で今後実施できればと思っております。以上です。

○座長 ありがとうございます。まだ、案ということで変わる可能性はあるんですけど、今のところ、西建で考えているところの案でございます。何かご意見でもあれば、お願いいたします。

★委員等からの意見・質問

○市民委員 平成 24 年度のほうが、下流にあるが？上流のほうがとおりが

良くなって、下流が後にやるのはのは大丈夫だろうか？

○事務局 基本的には下流側から護岸を整備するのがスタンダードなのですが、いろいろな制約条件等もあり、臨機応変に実施しているかと考えています。ここは今、橋の架け替え工事をやっている関係がありますので、24年度の工事は落差工をなくす工事で、特に支障はありません。

○市民委員 平成25年度の施工箇所ですが、ここは遊歩道を作る、作らないの議論をしている場所なので、なるべく時間のあるうちに勉強会を開いたり、フィールドワークしたりとか、少し時間をかけて案を練っていただければなど、思っています。

○座長 ここはまだ、管理用通路がペンディングになっているところですね。はい、認識しています。

○市民委員 25年度の工事に関わる事前調査の項目を決めるのはいつですか？

○事務局 事前調査は代田橋から菅瀬橋の上までやっていますので、前年度に項目確認させてもらっていますので、追加とか検討します。

○市民委員 ということは今年度ですね。

○市民委員 平井川の工事が出た大きい石は、川に入れてほしい。魚の住みかになる。

○事務局 23年度では、工事が出てきた石は、川に入れる予定です。

○座長 湧水のところに開放水面を作ろうという話は？

○事務局 湧水の周りが草に覆われるといけないので、石を置く予定です。

○市民委員 ヨシとかツルヨシとか種まく話だけど、工事やって翌年度に完全にうまくできればよいけど、今年やってうまくいかなかった場合は？

○事務局 とりあえずモニタリング調査をやりますので。施工のフィードバックも考えます。

○市民委員 何年度何年度でやっていくのではなくて、工事の完了したと

ころも含めて、種まきから移植まで、単年度に全部やっていくのも良いのでは？

○事務局 全域は難しいですね。

○座長 この場合の話だと 2 年前に戻らなければならないので。新しいところで、これから議論する際に、また意見を出していただくよう、よろしくお願いします。よろしいですか。これで議題のほうは終わりましたので、事務局のほうお願いします。

### 3. 閉会

事務局より、「次回の流域連絡会は、7月終わりから8月にかけて開催する予定。くわしい日程は、また連絡します。その時は、23年度工事がかなり具体的な設計ができています。また、25年度工事のペンディングになっている管理用通路について提案させていただきたいと思います。」と説明がありました

以上